

2. 事業の概要と成果																																			
(1) 上位目標の達成度	おおむね達成 □2村の農民組織について重点的に「土のう工法」を用いた道路整備研修を通した住民組織化を行い、1,200 m の農道が整備された □雨季における農林水産物の販売路が増えたことで商品価値の有利な市場での販売が可能になった（第1事業村、ウラテンガ村） □雨季においてアクセスが困難であった最寄りのクリニックへのアクセスが大幅に改善された（第2事業村、ダボクリ村） □上記の2事業村の工事リーダーが中心となり「土のう工法」を普及させることを目的とした住民組織“アンカバラケ”が結成された □上記住民組織により自発的に周辺村における道路整備が計画され、申請団体の協力のもとに150 m の道路整備が行われた □住民組織の実地工事指導研修として、最寄りの市2カ所、他地域の村落1カ所において合計600 m の道路整備が実施された																																		
(2) 事業内容	活動1：ダボクリ村、ウラテンガ村における道路整備の実地研修 活動2：結成された住民組織に対するワークショップとしての実地研修																																		
(3) 達成された成果	活動1:ダボクリ村、ウラテンガ村における道路整備の実地研修(表1) 本事業の主要対象村であるダボクリ村では、轍掘れや雨季に泥濘化する地点1,000 m に対して「土のう工法」により道路改修を行い、続いて雨季に完全に通行が遮断される渡河部100 m に対して盛土工事（最大盛土高さ0.5 m）を実施した。本対象地点は、ダボクリ村からの最寄りのクリニック、市場が位置する地点へのアクセス道路であり雨季に通行不可能の状況にあったが、施工道路によりアクセスの問題が解決された。また、施工盛土には付加的に堤防機能を持たせることで、盛土横のため池の貯水能力が向上することで、乾季における家畜の水不足問題についても解決された。 本事業の主要対象村であるウラテンガ村では、雨季に完全に通行が遮断される渡河部100 m に対して盛土工事（最大盛土高さ1.0 m）を実施した。本対象地点は最寄りの市場へのアクセス道路であり、これまでは雨季に遮断されることから住民は買い取り価格が低い他の市場において作物を出荷する、もしくは作物を出荷できずに腐らせるなどの問題を抱えていたが、施工道路により全季節において最寄りの市場への出荷が可能となった。また、ウラテンガ以北の村落への作物買い付けトラック、市場への資材搬入トラックが往来するようになった。 表1 活動1における道路整備概要 <table border="1"> <thead> <tr> <th>工事期間 (事前の住民会議を除く)</th><th>工事種別</th><th>距離 [m]</th><th>地域</th><th>協力者 管理者</th><th>累積参加者 [人]</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2014/10/15 - 12/25 (50日間)</td><td>道路整備</td><td>1,000</td><td>ダボクリ村</td><td>事業村リーダー</td><td>1,130</td></tr> <tr> <td>2015/1/5 - 4/6 (66日間)</td><td>盛土工事</td><td>100</td><td>ダボクリ村</td><td>事業村リーダー</td><td>1,912</td></tr> <tr> <td>2015/1/15 - 4/9 (50日間)</td><td>盛土工事</td><td>100</td><td>ウラテンガ村</td><td>事業村リーダー</td><td>1,692</td></tr> <tr> <td>2015/4/21 - 5/11 (16日間)</td><td>道路整備</td><td>150</td><td>ムソバドウグ村</td><td>アンカバラケ</td><td>540</td></tr> </tbody> </table>					工事期間 (事前の住民会議を除く)	工事種別	距離 [m]	地域	協力者 管理者	累積参加者 [人]	2014/10/15 - 12/25 (50日間)	道路整備	1,000	ダボクリ村	事業村リーダー	1,130	2015/1/5 - 4/6 (66日間)	盛土工事	100	ダボクリ村	事業村リーダー	1,912	2015/1/15 - 4/9 (50日間)	盛土工事	100	ウラテンガ村	事業村リーダー	1,692	2015/4/21 - 5/11 (16日間)	道路整備	150	ムソバドウグ村	アンカバラケ	540
工事期間 (事前の住民会議を除く)	工事種別	距離 [m]	地域	協力者 管理者	累積参加者 [人]																														
2014/10/15 - 12/25 (50日間)	道路整備	1,000	ダボクリ村	事業村リーダー	1,130																														
2015/1/5 - 4/6 (66日間)	盛土工事	100	ダボクリ村	事業村リーダー	1,912																														
2015/1/15 - 4/9 (50日間)	盛土工事	100	ウラテンガ村	事業村リーダー	1,692																														
2015/4/21 - 5/11 (16日間)	道路整備	150	ムソバドウグ村	アンカバラケ	540																														

また、ウラテンガ村では、特に工事を通して村事態がまとまりを取り戻し、使われることなく倉庫に眠っていた森林管理組織の資機材の有効利用、止まっていた村内の小学校の補修作業、計画途中のままになっていた村内での定期市開催などについて、道路工事参加者が中心になってリーダーシップを図り、これまで止まっていたコミュニティワークが動き出すという効果も確認された。

また、本事業の工事リーダーであった 18 名の村人により土のう工法の普及を目的とした住民組織“アンカバラケ”（「さぁ、働くぞ」の意味）が結成された。同組織は周辺村において雨季に泥濘化する地点の道路 150 m について「土のう工法」による道路改修を自発的に実施した。

また、両村において施工終了後の 2015 年 4 月 14 日に、日本大使館より倉富参事官、JICA 関係者、カスケード州 州知事（暫定政府におけるバンフォラ市臨時市長兼務）以下行政官、 オウ・バッサン州 州知事（暫定政府におけるボボ・デュラッソ市臨時市長兼務）以下行政官、さらには村落部農道整備に関心を持つ国内最大の綿花企業である SOFITEX 社にご来席頂き、譲渡式典を実施した。これを機会に特にバンフォラ市、SOFITEX 社との強い関係性が築かれた（後述）。本事業を通して得られた成果の概要については表 2 に示す通りであり。一部の項目に関しては後述の治安悪化による渡航中止のため未実施である（2 年次事業において実施予定）。

表 2 得られた成果の概要

項目	事業目標	指標	実施前	目標値	実施後
生活向上	農業収益向上	ウラテンガ村森林管理住民組織の売上	2014年度 6266万 CFA	2015年度 8891万 CFA	未調査*
	アクセスの改善	シデラドゥグまでの移動時間	ウラテンガ村:60分 ダボクリ村:80分	40分 53分	30分 40分
能力向上	道路整備の実施	整備された距離	85 m	3,385 m	1,350 m
	技術の習得	習熟度調査の実施	0人/233人	190人/233人	未実施*
発展性	行政等との協働体制	行政の視察回数	0回	6回	7回
		住民組織の会議回数	0回	3回	6回

表 3 活動 2 における道路整備概要

工事期間 (事前の住民会議を除く)	工事種別	距離 [m]	地域	協力者 管理者	累積参加者 [人]
2015/4/25 -5/6 (10日間)	道路整備	160	サポネ村	アンカバラケ 現地NGO	579
2015/6/26 - 8/12 (30日間)	道路整備	350	バンフォラ市 第6区	アンカバラケ バンフォラ市	1,501
2015/7/13 - 8/12 (16日間)	道路整備	90	バンフォラ市 第8区	アンカバラケ バンフォラ市	690

	<u>活動 2: 結成された住民組織に対するワークショップとしての実地研修(表 2)</u> 結成された住民組織に対する実地研修形式のワークショップとして、現地 NGO “ビ・ソング” と協働で他村での小規模盛土工事 160 m (沈下橋形式)、またバンフォラ市との協働でバンフォラ内の道路 440 m について道路整備を行った。住民組織は申請団体の後方支援のもと、住民組織化、資機材管理、工事監督を実施した。これらの活動の後、住民組織は 2015 年 9 月正式に住民組織の認可を受けた。
(4) 持続 発展性	<u>(ア)施工道路の維持管理</u> 村落における施工道路については、雨季後半において維持管理手法についてワークショップを実施し、技術移転を行った。道路、盛土の維持管理については今後、土のう袋、セメントの購入が必要となり地域住民のみで実施が困難であることが予想されるが、この問題を解決するために、住民組織 “アンカバラケ” には、今後、本住民組織によって実施されるワークショップにおいて得られる収入の一部を自身の村の維持管理費用としてプールすることをルールとしている。よって、この問題は解決され、今後の維持管理は十分達成可能であると予想する。 バンフォラ市における施工道路については、今後バンフォラ市により維持管理を実施していくことが約束されている。また、工事を終えてバンフォラ市では今後同市の予算を用いて自力で「土のう工法」による道路整備を行うことを決定し、現在 400 m の道路整備が計画されており、新たな工事の展開も期待されている (本計画工事は 2016 年 1 月中旬から開始)。 <u>(イ)住民組織の将来性について</u> 本年度の事業を通じて「土のう工法」がブルキナファソ国において広く周知されることとなり、個人から中央政府まで多くの整備要請を受けることとなり、また依然として農村地域においては雨季に遮断される渡河部、雨季に泥濘化するなどのアクセスに関する問題は山積みである。 特に村落における「土のう工法」による道路整備事業は、前述の SOFITEX 社により高い評価を受け、今後、申請団体は本事業地域周辺に対してさらなる道路整備を SOFITEX 社の網羅的に配置されたアニメーターを中心とした綿花生産者住民組織と協働で住民組織 “アンカバラケ” を通じて実施していく方針にある。これらの活動から、新たな地域における工事リーダーを本住民組織に迎え入れ規模を拡大するとともに、さらなる研修、実地研修を通して強固な組織にすることで、今後高まるニーズを請け負うことができる団体として成長させていくことを目標とする。一方で、住民組織が独自で行政等から事業を請け負うことは非常に難しいが、発注組織との密接な関係作りを続けることで、将来的に完全に自立して道路整備を行う団体としても活動できるようになることを目標としている。 他方で、住民組織を通じた道路整備事業について同国インフラ省の若者雇用局から高い評価を得ており、将来的に同部門とも協働の可能性があり、引き続き多方面の発注組織との関係性強化に努めていく。